

平成30年度第1回佐賀市立図書館協議会 議事録

開催日時：平成30年8月30日（木）14時00分～16時30分

開催場所：佐賀市立図書館2階 多目的ホール

出席者：（委員） 白根委員、南川委員、片岡委員、辻村栄子委員、辻村圭介委員、
古賀委員、福島委員、亀山委員、西郡委員、岩永委員
計10名

（事務局） 百崎教育部長、（健康づくり課）大城課長、（学校教育課）渕上係長、
江頭館長、中村副館長、中島サービスイ係長、松本サービスイ係長、
石丸大和分館長、木村東与賀分館長、塚原諸富分館長兼川副分館長、
原田富士分館長兼三瀬分館長、（図書館）草津、（図書館）矢ヶ部
計13名

（傍聴者）0名

1. 開会

2. 委嘱状交付

3. 教育部長挨拶

4. 議事

①前回協議会報告

【前回の議事録による前回協議会報告】

【前回協議会での検討事項の対応状況報告】

（事務局）

・平成29年度3月の協議会で以下のような意見が挙がった。現在、方法の検討や、予算要求のための見積書の取得を行っている。

①市立図書館の表示について→アバンセの南側を通ると図書館が分かりづらい

②西玄関の表示について→イベント案内が分かりづらい

③子どもの読書について→図書館の中で親子が本を楽しめる環境を

④新しいホームページについて

→当初はどこから入ればよいか分からなかった

→カレンダーからは開館時間が分からない

⑤東側玄関の照明について→夜間にポスト前がついていなかった

【質疑】

（委員）

・前回協議会から5ヶ月経過している。例えば、玄関の表示についてはどのような検討を行

ってきたのか。

(事務局)

- ・道路の表示については、設置すべきどうかも含め、関係各所と確認を行っている。もし設置する場合、どんだんどの森の周回道路に設置するのか、また、現在道路に表示がある中で更に設置すべきかどうかを検討している。
- ・西玄関の表示について、掲示物が多いためにイベント案内が分かりづらくなっているのではないかと考えている。掲示物をどう整理していくのかも含め、内部で検討を行っているところである。もし何かご意見があれば、ご教示いただけるとありがたい。

②平成29年度事業報告

【資料に基づく事業報告】

(事務局)

●数値データについて

- ・平成29年度の本館来館者は473,243人で、前年度に比べて24,705人減少している。
- ・平成29年3月末現在の登録者数は103,897人と903団体で、登録者の居住市町村別では、佐賀市が83,568人で、これは市の人口の35.8%にあたる。
- ・平成29年3月末現在で全館の所蔵数は、一般書455,270冊、児童書218,986冊、雑誌38,296冊、視聴覚資料(絵画も含む)23,751点、郷土行政23,001冊、その他の資料を含め合計785,767点である。平成29年度に増加した資料は購入によるものが31,471点、寄贈・その他が3,919点で、合計35,390点となっている。
- ・平成29年度の資料の貸出しは、全体で1,724,219点となっており、開館日数は285日(本館)で、一日平均6,050点の貸出しがあったことになる。また、利用者の一人あたりの平均貸出点数は5.1点(※)となっている。

※利用者の一人あたりの平均貸出点数 = 総貸出点数 ÷ 貸出を行ったのべ人数

●本館イベントについて

- ・本館では明治維新150年の前年ということで、2月9日から3月11日にかけて「島義勇と札幌展」を行った。内容は、島義勇が約150年前に蝦夷地を探検した足跡と現在の札幌市を紹介したもの。閲覧者ののべ人数は2,982人だった。
- ・これに関連して、2月18日に明治維新150年記念の講演会を行った。札幌市公文書館の榎本洋介氏による、島義勇の業績についての講演会で、非常に盛況だった。225人の参加があり、多目的ホールだけでは入りきれず、大集会室も利用した。

●大和館イベントについて

- ・7月20日から22日にかけて、「本のお中元」と「チャレンジ袋」というイベントを行った。司書が選んだテーマに沿った本3冊を1セットにして、一般向けの「本のお中元」、児童向けの「チャレンジ袋」各21セットを作成し、本のタイトルは隠して貸出を行うというイベントである。夏休みにあわせ、普段は手に取らないような本に興味をもって貰うため

実施した。3日間で全て貸出してしまった。

●東与賀館イベントについて

- ・6月2日から6月28日にかけて、「梅雨明けと降水量を当てよう！」というイベントを行った。3点以上の貸出で応募用紙を渡し、的中者や的中に近い回答を行った人にプレゼントを渡すという内容である。昨年度の梅雨明けは7月20日で、降水量は504ミリだった。梅雨明けの正解者は22名で、そのうちもっとも近い降水量を回答した方が5名だった。

●富士館イベントについて

- ・平成27年から、常設展として「製菓王森平太郎の軌跡」展を行っている。富士町出身の偉人である森平太郎は、戦前の日本で三大菓子メーカーと称せられた新高製菓の創業者である。財を成すだけではなく、北山小学校の講堂を再建するため、6000円、現在の価値にすると約1億円の寄付を行い、地域に多大な貢献を行った。新高製菓製品の空き箱や、台湾にあった工場、北山小の講堂の写真などの展示を行っている。
- ・また、作家北方謙三が森平太郎の曾孫にあたることから、北方謙三のコーナーも常設していた。

●三瀬館イベントについて

- ・4月22日から5月13日にかけて、「子どもの読書週間」にあわせて「ガラポンくじでプレゼント」を行った。期間中に本を借りると、くじが引けるというもので、折紙で作成した「八重のかざぐるま」やギフトボックスをプレゼントした。35人が参加し、先着30人には手づくりのストラップをプレゼントした。

●川副館イベントについて

- ・7月21日から8月30日に、「なつやすみ 読書ビンゴ」を行った。300人の参加者に、日本十進分類法の分類番号を書いたビンゴ用紙を配り、ビンゴ用紙に書かれた分類の資料を借りて貰う。関心が少なかった分類の本に、興味を持ってもらうきっかけを作るために行った。一列達成者58人、二列達成者34人に手づくりのしおりやカードケースをプレゼントした。

●諸富館イベントについて

- ・8月6日に「おはなしの素」を、12月16日に「ぽかぽか冬のおはなし会」を開催した。内容は、大型紙芝居や手遊びうた、パネルシアターやハンドベル演奏、サンタさんからのプレゼント配布などからなる、にぎやかなおはなし会である。
- ・これらは、諸富館がボランティアと協働で行っているイベントである。平成19年8月に、地元のおはなし会ボランティアグループの集まりである「おはなし連絡会 Morodomi」と諸富館で共同企画をし、諸富館2周年記念イベント「おはなしの素」が誕生した。これが現在まで続いているものである。「ぽかぽか冬のおはなし会」は、平成21年度12月から共

同企画として開催している。

【質疑】

(委員)

- ・東与賀館で人形劇を行ったとあるが、これは図書館の中で行ったのか。

(事務局)

- ・東与賀館は東与賀文化ホールの中にあり、人形劇はホールの指定管理者である佐賀市文化振興財団の主催によりホールで行ったもので、当館は共催という形で関わった。

(委員)

- ・昔話というのはこどもたちにとって、非常によい教訓を教えてくれる。保護者の方と一緒に観劇することで、家に帰ってからもその話が話題にあがったりする。そして、原作への興味を持つきっかけにもなる。非常によい取り組みだと思う。

(会長)

- ・利用者の一人当たりの平均貸出点数(※)は、どう計算しているか。

※利用者の一人あたりの平均貸出点数 = 総貸出点数 ÷ 貸出を行ったのべ人数

(事務局)

- ・総貸出点数を、貸出を行ったのべ人数で割って計算している。

(会長)

- ・市民一人当たりの貸出点数(※)は、どの程度になるか。

※市民一人当たりの貸出点数 = 総貸出点数 ÷ 佐賀市民の数

(事務局)

- ・H27年度は8.1冊、H28年度は7.8冊、H29年度は7.4冊と減少気味である。全国平均は、H27年度が5.35冊、H28年度が5.26冊となっており、全国平均も減少傾向にある。また、佐賀市は、全国平均は上回っているといえる。

(委員)

- ・読み聞かせボランティアの参加者の年齢層はどのようになっているか。

(事務局)

- ・本館の印象になるが、「赤ちゃんサークル」で行っている木曜日の赤ちゃんお話し会は0～3歳くらいが多い。保護者と一緒に参加する。人数は平均すると、大人もあわせて10人程度である。それ以外のお話し会は、「おはなしの部屋」で行っている。こちらは職員やボランティアなどが行っているが、7～8歳くらいの参加が多い。一番大きい子どもでも3年生くらいという印象である。大人もあわせると12～13人程度が参加しており、2～3歳くらいまでは保護者同伴が多いが、それより年齢が上の場合は子ども達だけで参加していることが多い。

③平成30年度佐賀市立図書館の運営について

【資料に基づく事業報告】

(事務局)

●事業概要について

- ・佐賀市立図書館は、平成 27 年度に策定した第 2 次佐賀市立図書館サービス計画をもとに、図書館運営を行っている。サービス計画では基本目標を 4 つ定めている。

①子どもの成長や心豊かな人づくりに役立つ図書館

- ・図書館資料を使って子どもの感性や人間性を育む読書活動を支援する。
- ・具体的な事業：赤ちゃん絵本ガイドブックの作成、読み語りボランティアの育成、学校図書館との連携

②情報や交流の拠点として市民に役立つ図書館

- ・市民の多様な生き方や考え方に対応した資料や、情報を収集・提供する。
- ・具体的な事業：広報活動の充実、誰もが利用しやすい環境整備、計画的な施設改修

③地域づくりに役立つ図書館

- ・地域文化や伝統文化に関する情報を収集・保存し、地域の魅力を掘り起こし、地域の活性化につなげる。
- ・具体的事業：郷土文化のデジタル化への取り組みなど

④市民と共に変革を進める図書館

- ・市民と共につくる図書館づくりを目指す。
 - ・具体的な事業：職員研修の充実、第三者評価のための市民アンケート等を実施、市民との協働ができる事業がないかの検討
- ・基本目標ごとに成果指標を定めている。目標年次である平成 32 年度までに目標値を達成できるように、平成 30 年度も事業計画に基づいて実施していく。

●今年度の特徴的な事業について

- ・平成 29 年度 2 月議会の付帯決議により、佐賀市民を対象に図書館に対するニーズ調査を行う予定である。

【質疑】

(委員)

- ・各館で趣向を凝らした取り組みをしていると思う。大和館の「本の名は」というイベントで、対象の本が H29 年度は 30 冊、H30 年度は 20 冊となっているが、冊数が減っている理由は何か。また、面白い試みであると思うので、大和館だけでなく本館にも広げることが可能かをお聞きしたい。

(事務局)

- ・本のタイトルを伏せた上で、1文を抜粋・引用して表示した本の貸出を行うというイベントの内容だが、思ったより貸出が伸びなかった。そのため、今年度はイベントの規模を縮小し、他のイベントへ力を入れようと考えている。
- ・司書がアイデアを出しながら、各館の特色を出したイベントを行っている。他館のよいところを取り入れたり、委員さんたちの意見も参考にしたりしながら、今後もそれぞれの館でイベントを行っていききたい。

(委員)

- ・本のタイトルを隠して本を売っていた書店の例にならったのだと思うが、新しい本との出会いを作るという点では面白い取り組みかなと思う。できれば本館でも行って欲しい。

(会長)

- ・書店の例は「文庫 X」という名称だったと思う。本にカバーをかけて書店員の感想をつけて売っていたと記憶している。内容の紹介というのも新しい切り口で面白いと思った。色々な新しい取り組みを行い、市民の読書への興味を駆り立て、貸出冊数の増加に繋げて貰えればと思う。

(委員)

- ・佐賀大学の公開講座について、H29年度の第三回の講師の方のお話を、もう少し聞いてみたいと思った。もしよければ、今年も呼んで頂けないだろうか。

(事務局)

- ・今年度も、佐賀の歴史と文化について公開講座を3回開催する予定である。今年度については、おそらく別の講師の方をお呼びすることになると思うが、ご了承頂きたい。

(委員)

- ・大和館で「ぬいぐるみおとまり会」を毎年開催されているが、いつから始められたのかと、イベントの意図を伺いたい。

(事務局)

- ・このイベントは平成27年度から行っている。閉館後の館内にぬいぐるみを置き、写真を撮影して参加者に渡すという内容である。閉館後の図書館や、事務室、閉架書庫など普通は入れない場所の雰囲気を知ることによって図書館への興味を持ってもらい、利用の増加に繋げるために行っている。

(会長)

- ・同様の試みを行っている図書館で、「ぬいぐるみが選んだ本」を紹介して借りてもらうという試みを行っている館もある。そういう試みも面白いかもしれない。

(委員)

- ・大和館で以前行っていた「年賀状コンクール」を、ぜひ復活させて頂きたい。

(事務局)

- ・「年賀状コンクール」を始めた当初は応募も多かったが、だんだん応募数が減り、中止の前の年は10通程度に減ってしまっていた。開催にあたっては、表彰状や商品の準備も行う必要があり、それなりの労力が必要になる。そのため、「年賀状コンクール」は中止し、別のイベント「本の名は」に力を入れることにした経緯がある。

(委員)

- ・利用者も目新しいイベントには興味を示すが、徐々に反応が悪くなることもある。新しい取り組みを行っていくことが大切なのかもしれない。だいたいどの程度のサイクルでイベントを更新するのがよいのかななどを、検討しながらイベントの見直しを行うとよいかもしれない。

(委員)

- ・諸富館の「石ころアート」について、面白い試みだと思う。年齢層はどうだったのか。

(事務局)

- ・「石ころアート」については、以前専門の講師の方を呼んで実施したことがあった。その際の作品をチラシの重石として利用していたところ、興味を持つ利用者が多かった。諸富館は芸術関係の本が少ないが、芸術関係の本にも興味を持って欲しいと思い、今回は職員が講師となって実施した。小学校入学前のこどもが5～6人参加していた。

(委員)

- ・幅広く展開できそうな行事だと思った。本館などでも検討しては良いのではないかと感じた。

(委員)

- ・諸富館で読書週間に行っている「読書の木」について、今年初めての試みかを知りたい。また、できれば本館でも行って欲しい。同年代の人がどのような本を読んでいるのかを知りたい。

(事務局)

- ・諸富館では、利用者のおすすめ本の紹介は、毎年春のこどもの読書週間にあわせ、年に1回は行うようにしている。今年は司書のアイデアで少し趣向を変え、利用者が木の葉型の色紙におすすめの本の紹介を書いてもらうことにした。この色紙を「読書の木」に貼り付けてもらうことで、大きな「読書の木」を完成させていくイベントを行う予定である。
- ・本館の児童担当では、毎年こどもの読書週間にあわせ、「ポップでブックバトル」や「イチオシ！ポップまつり！」というイベントを行っていた。応募数が減ってきたため、「ポップバルーンを飛ばそう」というイベントに変更を行った。これは、バルーンの形をしたカードに、無記名でお勧めの本とその理由を記入してもらい、自由にボードに貼れるようにした。「ポップでブックバトル」や「イチオシ！ポップまつり！」は、ポップに順位をつけるようなイベントで、参加者数も一桁にまで落ち込んでいたが、「ポップバルーンを飛ばそう」では、200を超えるほど応募が増えた。カードがボードから溢れるほどに参加者が多かった。

(委員)

- ・子どもだけでなく、大人向けのイベントとしても実施して頂けるとうれしい。

(会長)

- ・同じような内容のイベントでも、目先を変えることで、参加者数が再び増えるという事例は面白いと感じた。

④子どもの読書活動推進計画の策定について

【資料に基づく事業報告】

- ・平成30年2月議会において、子どもの読書活動を推進してほしいとの一般質問があった。平成22年6月議会でも議員から質問があり、子どもの読書活動の充実についてと、それまで佐賀市が行っていたブックスタート事業の復活を求められた。「子どもの読書活動推進計画」を策定し、その計画とともに読書推進事業を、総合的かつ継続的に推進するために、例えば、子ども読書推進センターのような部署を設置できないかという質問だった。
- ・今年的一般質問は、子どもの読書活動の推進に関する施策を、総合的かつ計画的に推進していくため、市教育委員会としても他部署と連携しながら計画の策定を進めてほしい、という内容だった。
- ・国も、第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」を平成30年5月に示しており、佐賀市としても読書推進活動の全体像を示す必要がある。まずは基本となる「佐賀市子どもの読書活動推進計画」を策定するために、学校教育課、健康づくり課、図書館が集まって協議をしてきた。
- ・今回の計画案を今回の協議会に諮り、それを踏まえて、定例教育委員会と議会の文教福祉委員会で報告する予定である。その後、パブリックコメントを実施したうえで、平成30年度第2回図書館協議会に諮って最終確定し、平成31年4月に施行する予定である。また、この計画は、平成31年度から平成35年度までの5年間を計画している。

【質疑】

(委員)

- ・調べる学習コンクールについて、図書館を活用するという点では非常に基本的なことが学べる。ただ、どうまとめてどういった作品にするかというところがなかなか難しい。今年が開成小学校に図書館から来て頂き、学校の職員にしっかり説明して頂いたのがよかった。学校に、調べる学習の良さやまとめ方などをしっかり教えて貰えると、どの学校でも取り組みやすくなると思う。学校が取り組みやすくなる方法を考えて頂けるとありがたい。

(事務局)

- ・できるだけ学校にも足を運んで、調べる学習について説明する機会を作りたい。
- ・去年は千葉県の袖ヶ浦市から、教育委員の中村伸子先生をお呼びし、小学校の学校司書の方を対象にした講座を開いた。開催日が日曜なので申し訳なかった。今年は3年目でノウハウも蓄積してきたため、講師は呼ばずに市立図書館の司書で対応を行う予定である。

(委員)

- ・日曜だと職員を出しづらいところがある。

(会長)

- ・計画について、学校が調べる学習に取り組みやすくなる方策を盛り込むということによいか。

(事務局)

- ・そうしたい。

(委員)

- ・学校図書館について、週に1回しか開いていない学校があると聞いた。司書が人材不足なのか。もっと子どもが多く出入りできるような状況にしていきたい。

(会長)

- ・佐賀市は他の自治体より学校司書の配置が進んでいるが、あまり開いていない学校図書館があるのか。

(事務局) 学校教育課

- ・基本的には、休み時間・昼休み・放課後、学校図書館は開館しており生徒は自由に入れるはずである。司書の出張などで、たまたま開いていないことはあるかもしれない。確認をしたいので、どの学校の状況なのかを教えて欲しい。

(委員)

- ・市立図書館の図書館探検の取り組みは、図書館に元々興味がある子どもは参加するかもしれないが、今まで来ていなかった子どもは参加しないと思う。図書館を利用したことがない子どもや、あまり利用していなかった子どもを呼ぶような試みをして頂けるとうれしい。

(事務局)

- ・学校図書館との連携や市報などを通して、保護者の方や市立図書館を利用していない子ども達にも、しっかり広報をしていきたい。

(委員)

- ・調べる学習コンクールの説明で「レベルが高い」とおっしゃったが、全国的なレベルが高く入賞が難しいので、子ども達がやる気を無くすというような意味か。

(事務局)

- ・「調べる学習コンクール」の出品には、出典とする資料の数などに制約があり、ルールが分かりづらいところがある。また、“図書館を使って”調べるのではなく、工場見学をしてまとめたような作品の出品もあり、コンクールの趣旨が伝わっていないところがある。そういった意味で「レベルが高い」ということである。コンクールの趣旨等について、しっかり周知をしていく予定である。

(委員)

- ・計画は佐賀市として初めて策定するものか。平成22年の6月議会で「子どもの読書活動

推進計画」について質問があがっていたが、策定に時間がかかったのはなぜか。

(事務局)

- ・教育委員会や市長部局など複数の部署に関連した内容であるため、どの部署が中心となって進めるかなどの問題があった。また、他の自治体の状況などを見ながら策定しようという思惑もあった。あまり先送りしすぎるのもよくないだろうということで、今年度実施している。

(委員)

- ・県内の策定率はどうか。

(事務局)

- ・H17年3月に佐賀県が策定しているが、5年間の計画だったためH22年に失効している。県は、まだ新たな計画を策定するには至っていない。他には過去に神崎市が策定している。小城市は、平成22年4月に「第一次小城市子どもの読書活動推進計画」を、平成27年7月に「第二次小城市子どもの読書活動推進計画」を策定している。

(委員)

- ・数値目標は定めないのでか。

(事務局)

- ・第二次図書館サービス計画や、第三者評価委員会にかける市民満足度調査には、数値目標を設定している。しかし、子どもの読書活動推進計画には、計画の性質上、数値目標を盛り込むのはどうかという意見が関連部署会議において出たため、現段階では盛り込んでいない。委員のご意見を受けて、数値目標を定めるかどうか再度検討したい。

(委員)

- ・3～6ヶ月児セミナーで、500円の補助券の配布と絵本の販売を行っているが、全く購入しない保護者もいる。手出しが出来るだけ少なくなるよう、500数十円の絵本も販売している。おそらく、支出額の問題ではなく関心がないのだろうと思う。そういった方々に、本がコミュニケーション等に役立つことを、どう知って貰うのかを考えなければいけない。以前は、セミナーの際に本の紹介を行っていたが、今は冊子の配布しか行っていない。
- ・できれば、市立図書館の司書にセミナーに参加してもらい、乳幼児期の読書の重要性や絵本の紹介をして欲しい。

(委員)

- ・セミナーの際に司書が参加して話をするなど、改善策を検討していただきたい。

⑤図書館利用者アンケートの結果について

【資料に基づく事業報告】

- ・毎年5月に本館及び各分館で利用者の皆様に記入をお願いし、実際に図書館を利用されている方の満足度等を調査している。
- ・回答者の男女比や年齢構成等について、特に極端な変動はないが、50代以上の方の割合が徐々に増えている。
- ・利用しているサービスについては、例年とあまり変化がない。「貸出サービスの利用」や「資料の館内での閲覧」が、毎年多くなっている。
- ・充実させて欲しいサービスについては、例年と同じく「本や雑誌の貸出」、「AV資料の貸出」についての割合が多い。
- ・各サービスの満足度についても、例年とほぼ同じ傾向である。満足度が高いものは、「本、雑誌、新聞の充実」「職員の対応」「図書館の居心地」や「総合的な評価」。逆に不満足度が高いものは、「CD、DVD、ビデオの充実」「ホームページなどの利用のしやすさ」「開館時間、開館日数」。
- ・不満足と答えた人の数が、満足と答えた人の数を超えているサービスはないが、「CD、DVD、ビデオの充実」については不満足と答えた人の数と満足と答えた人の数が非常に近くなっている。CDやDVDなどの視聴覚資料については、市立図書館全体で毎年300点から500点程度の受入を行っているが、書籍に比べて高額なことから、購入数を増やすことが難しい状況である。
- ・平成30年度中に、市民に対する図書館のニーズ調査を行う予定である。結果については、次回協議会か平成31年度の第一回協議会で報告を行いたい。

【質疑】

(委員)

- ・図書館のスマートフォン向けOPACから資料検索を行うと、表示される情報が少ないので本が非常に探しづらい。資料コードや分類番号は表示されているが、これらの情報では書架の本は探せないため、請求記号を表示して欲しい。また、著者名へリンクを貼って、同一著者の検索結果が表示されるようにして欲しい。利用者が求めている情報が何なのか、精査して頂きたい。

(事務局)

- ・平成30年1月から、ホームページやOPACにスマートフォン向けの画面を公開したが、スマートフォンの画面は小さいため、表示できる情報量が少ないという制約がある。ご指摘いただいた点については、保守業者と協議して対応可能か検討したい。
- ・スマートフォン向けのホームページに、スマートフォンでパソコン向けのサイトを表示するためのリンクを作成した。スマートフォンでパソコン向けのサイトを閲覧したい場合は、そちらのリンクもご活用いただきたい。
- ・協議会后、実際に画面を見ながら確認をさせて頂きたい。

(会長)

- ・検討をお願いします。

(委員)

- ・ホームページへのスマートフォンからのアクセス数などはわかるか。

(事務局)

- ・ログを取得しているか保守業者に確認を行いたい。ただし、ホームページについては、アクセスしたブラウザの種類でスマートフォン/タブレット向けのサイトを表示するか、パソコン向けのサイトを表示するか判別していると思うので、スマートフォンとタブレットは分けてカウントできていないと思う。

⑥サービス計画の成果指標について

【資料に基づく事業報告】

- ・図書館では、平成27年度末に「第2次佐賀市立図書館サービス計画」を策定した。平成28年度から32年度の5カ年にわたる計画である。この計画の中で、具体的な施策・事業について、4つの方向性に基づいた図書館サービスを実現するため、施策の方向と具体的事業を掲げている。
- ・基本目標1から基本目標4までの目標に対して、合計10の指標があるが、基本目標1の「利用登録者数」、基本目標4の「佐賀市立図書館のサービスが充実していると思う市民の割合」と「ボランティア登録者数」以外は、数値は減少傾向にある。
- ・基本目標3の「レファレンス件数」について、これまでは本館調べものコーナーの件数及び分館での件数をカウントしていたが、平成29年度はこれに加えて分室や本館の案内カウンターの件数などを含めた数字となっている。従前の数字と比べるためカッコ書きで併記している。
- ・基本目標3の「レファレンス事例のデータベース登録数」について、平成29年度の件数が前年度までと比べて非常に数値が低い状況になっている。これは、平成29年度に企画・実施した、明治維新150年関連事業の「島義勇と札幌展」の準備等の対応を最優先で行ったため、データベース登録数が少なくなっている。
- ・基本目標4の「ボランティア登録者数」について、この指標は図書館で実施したボランティア養成講座等を受講後、登録し、活動しているボランティアの人数をカウントしたものである。現在、図書館でのボランティア活動も多岐にわたっているため、次回のサービス計画策定の際には、指標の考え方の変更も必要だと考えている。

【質疑】

なし

⑦その他質疑

(委員)

- ・学校で利用している教科書について、以前は一般書架にあったが現在は児童コーナーにある。できれば一般書架に戻して欲しい。また、現在は貸出も行っていないので、貸出できるようにして欲しい。

(事務局)

- ・教科書に掲載されていた物語を読みたいという問合せが、児童カウンターにある。そのような問合せがあることを考えれば、児童コーナーに教科書を置く利点もあると考えている。

(会長)

- ・教科書はそれほど高くないので、複本を買うことも検討してはどうか。

(委員)

- ・教科書会社も、寄贈してくれるのではないか。